

【祈りのパワーと神の祝福】

聖書：列王記第一 18章 41-46節/ 暗唱：ヨハネの福音書15章7節

チョンナムチヨル
 説教者：鄭南哲牧師
 (Rev. Jung nam-chul)


愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もお変わりなくみんなお元気でしたか。コロナ禍が続いている中大分熱くなりましたが、また今週から天気が崩れ、雨の日などが続く見たいです。体調管理を注意して下さい。

本日主日礼拝は特に、「今年の子供祝福礼拝」として捧げています。

今日も礼拝中に臨在される神様が、みなさんの子供たちの上、特に我々のクリスチャンプレイズチャーチにかよっている子供たちの上に豊かな祝福と知恵を与えて下さって世の中で、尾とならず、みんなかしらとさせ、信仰の大物として成長させてくださいますように心から主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！子供の主日を迎えたからではなく、教会だからこそ、今こそ、もっと子供たちを歓迎し、暖かい関心を持たなければなりません。子供たちがいない社会、国、教会とは未来を明るく夢見ることができません。それは現代今の社会の要求以前に、当時イエス様の時代、社会の中で一番無視され、ほったらかされていた弱者(じゃくしゃ)だった子供たちに対してだれより、救い主イエスキリストがすでに子供たちを歓迎され、祝福し、子供の存在の大切さを教えて下さった事を、我らは聖書を通して知ることが出来るからです。

マルコの福音書10章14節に「子供たちを、私のところに来させなさい。邪魔してはいけません(止めてはいけません)。神の国は、このような者たちのものなのです。」その後イエスさまは子供たちを抱き、彼らの頭の上に手をおいて祝福を祈られた(16節)と記録されています。

子供たちの存在は決して邪魔者ではありません！止めてはならない！そのように扱ってはいけないのに、今日、残念ながら、家庭でも、教会ですら、子供たちがそのように扱いされているのは少ないではありませんか。我らの教会で、実は、イエス様が子供たちを温かく迎え入れ、その子供たちの為に祝福されたことを通り、実践しているところがあるでしょう。オリーブブLESSINGを通して、我らの牧場でまず、イエス様が今日されたように子供たちに心を向けさせ、祝福を心から祈る場が牧場であり、そう思うと、牧場の存在がもっとも大切に、本当に感謝しています。

<聖書本文>

そんな神様から与えられた大切な子どもたちがこれからさらに神の御力と日頃体験し、多くの人々の為、神に大いに用いられる存在として祝福されていくために、本日我らが子供たちに何を教え、どんな実践の模範を見せるべきなのかエリヤの姿を通して、共に学びたいと願っております。

今日の御言葉の本文18章では、神様は旧約の預言者だったエリヤをとおして天からの雨をふらせるために、エリヤを呼んで下さっている内容から始まっています。イスラエルは今大変3年6か月間も雨が降らず、大変飢饉に襲われ、人がどうしようも出来ない苦しい日々が続く状況でした。

「かなりの日数を経て、三年目に、次のような主のことばがエリヤにあった。「アハブに会いに行け。わたしはこの地に雨を降らせよう。」(第一列王記18:1)

詳しく調べると、神様からのことばをいただいたエリヤはイスラエルのアハブ王に行きます。そして、エリヤはカルメル山で四百五十人のバアルの預言者と四百人のアシェラ預言者と戦います。エリヤはどちらの神がまことの神なのか、どちらの神が天から火をくだすのか確かめてみようと思挑(いど)みます。

先にバアルとアシェラの預言者たちは長い時間、自分たちのやり方で自分たちの神々に天から火を下して下さるように叫びますが、何の反応はありません。すえには自分たちの体に傷をおわせ血を流すほど、切に求めましたが、何の答えや反応がありませんでした。

そして、次にエリヤが祈りはじめます。**第一列王記18章36-37節**をどなたか読んでくださいますか。

「捧げものを献げるころになると、預言者エリヤは進み出て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があなたのしもべであり、あなたのおことばによって私がこれらすべてのことを行ったということが、今日明らかになりますように。37私に答えて下さい。主よ、私に答えて下さい。そうすればこの民は、主よ、あなたこそ神であり、あなたが彼らの心をひるがえして下さったことを知るでしょう。」

彼が祈ると、神様はエリヤの祈りを聞き入れて下さって天から火を下して下さいます。850対1の戦いで神様はエリヤの祈りを通してご自分こそ、唯一の真の神であられ、神の全能さと生きておられること、あらわし、大勝利をエリヤに許して下さいました。

今日の本文はその大勝利の直後に起こった出来事でした。エリヤはこの勝利の後、再び、カルメル山にのぼります。

今回は神様に神様の約束どおり、雨を降らしてくださるように祈ります！3年6ヶ月の間、イスラエルに降らなかった雨が降るように祈る中で、エリヤが求めたのは雨のサインでした。エリヤは若い者に海のほうを見るように言います。雨のしるしがあるのか報告させます。エリヤが七度目祈り続けながら、天から手のひらほどの小さい雲が上って来たと書かれています。(44節「七度目に若者は、「ご覧ください。人の手のひらほどの小さな濃い雲が海から上っています」と言った。エリヤは言った。「上って行って、アハブに言いなさい。『大雨に閉じ込められないうちに、車を整えて下って行きなさい。』」)

エリヤは人の手のひらほどの小さい雲をみて大雨を予測しています(45節「しばらくすると、空は濃い雲と風で暗くなり、やがて激しい大雨となった。」)。まだ、大雨は降らなかったですが、エリヤはその小さい雲が上ってくるのを見て、神様からの答えとして確信を持ち、彼の信仰の通しりに3年6ヶ月ぶりに大雨がイスラエルに降るようになったのです。七度、切に神様に祈り求め続けたエリヤの祈りのおかげでした。

今日我々は神の大成御業が成し遂げられるために、神はエリヤの切なる祈りを用いて下さったことが分かります。エリヤを通して教えられる祈りはどんなものでしょうか。

①祈りは、神の約束の御言葉が実現され、実体験出来るように導きます。

エリヤ一人の祈りの特徴は、神様の約束の御言葉をにぎった祈りでした！

エリヤの祈りの特徴はまず、神様の約束を握って祈ったということです。神様のお言葉は人に約束された小さい種のようなものだと言えるでしょう。

しかし、その小さい種をいだいて祈る時、神様の御心を成し、神の御業を实际経験されるように導いて下さいます。

「それから、かなりたって、三年目に、次のような主のことばがエリヤにあった。「アハブに会いに行け。わたしはこの地に雨を降らせよう。」(第一列王記 18:1)」

エリヤも神様からの約束のみことばをいだかなかつたならば、決して大胆に、そして最後まで祈り続けることが出来なかったと思います。

しかし、みなさん！神様はエリヤを用いる前にお言葉を持ってかならず雨を降らせてくださると約束されました！ここでそうならば、エリヤがわざわざ祈らなくても、神は雨を降らせるのに、別にエリヤが祈らなくても良いのではないのでしょうか。どうして神様はエリヤが祈る前までは雨を降らせてくださらなかったのでしょうか。

神様は約束の御言葉を与えて下さいますが、その約束をただ成してくださるのではなく、神様の御約束を成し遂げられる時、人を用いて下さる、だれでもなく、神の約束の御言葉を信じて祈ることを通して、成し遂げられるお方であることが分かります。

エゼキエル書36章36-37節の御言葉を読んでみましょう。

「あなたがたの周りに残された諸国の民も、主であるわたしが破壊されていたところを建て直し、荒れ果てていたところに木を植えたことを知るようになる。主であるわたしがこれを語り、これを行う。37神である主はこう言われる。「わたしはイスラエルの家の求めに応じ、このことを彼らのためにする。わたしは人を羊の群れのように人を増やす。」

この御言葉は捕虜としてバビロンに連れられたイスラエルの民がもう一度回復されることを約束された御言葉です。ここで、神様が強調されておられるのは祈りです。

「主であるわたしがこれを語り、これを行う。神である主はこう仰せられる。わたしはイスラエルの家の求めに応じ、このことを彼らのためにする。(願いを聞き入れて、次のことをしよう。)」

神様は必ず約束された御言葉通り、かならず成される方です。ところが、それをただ成される方ではなく、その御言葉を信じて、約束の御言葉に従って、祈る祈りを通して実現され、成されます。

そういうわけで、祈る人は自分が好き勝手に祈るのではなく、神の約束の御言葉を元にし、握って祈る時に实际神の御業を体験することが出来るのです。神様はそうふうになされません。神様は約束のことばを信じて祈る人をおして成就されます！

ですから、我々も祈る時、エリヤのように神様の約束のことばを握って祈らなければなりません。私たちが聖書を読み、学ぶ一番大切な理由もここにありますが！御言葉と祈りはセットだと考えて下さい。そして、子どもたちに祈りを通して、神の御力を実体験できるように、神の約束の御言葉から離れないように、御言葉の約束をちゃんと握って祈れるように教え、導き、助けてあげて下さい！

神様の御言葉が我々にとどまるとき、我々はその御言葉を握って祈れるようになります。そして、その祈りが実際にこたえられる神の御業を実際に経験されるようになることを覚えて、家庭の中でも是非そのように実践して見ましょう。イエス様も神様の約束の御言葉を握って祈ることを大切な祈りの原則として教えて下さいました。

「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求め

なさい。そうすれば、(あなたがたのために)それがかなえられます。(ヨハネの福音書15章7節)」アメン！
我らが祈っても、答えられない時があります！それは、大体神の御言葉にそった祈りではなく、自分の思う通り、願ひ通り、欲しがると自分に勝手な祈りは、ただ神の御心と関係なく、神を動かそうとすることにすぎないことを注意し、覚え、祈り、また子どもたちにも教え、見せて頂きたいと願ひます。

聖書は神様の御言葉を種だと教えています。聖書には数千回の神様の約束が書かれています。その神様の約束は種のようなのです。その約束の種をいだいて求める祈る時こそが、まことの祈りであり、その約束の実が実際見える形で、体験出来る形として答えられるのを覚えて行きましょう。

②祈りは今もなお生きておられる全能の神の御前で人を謙遜になるように導きます。

今日エリヤは当時イスラエルでは全民に愛され、信頼され、尊敬されていた全体的な存在であり、神からの大預言者として認められ、大いに用いられていた存在でした。しかし、エリヤは変わらず謙遜な祈りを捧げた人であることが分かります。

今日の本文ではエリヤは祈る時、地にひざまずき、その顔をひざとひざの間にもうずめて祈っていたことが分かります。本文42節をご覧ください。

「そこで、アハブは食べたり飲んだりするために上って行った。エリヤはカルメル山の頂上(ちょうじょう)に登り、地にひざまずいて自分の顔を膝の間にうずめた。(第一列王18:42)」

先日、エリヤは祈り、天から火を下した人です。イスラエルの民は彼が起こした奇跡の前で感激、エリヤを仰ぎ見ました。しかし、エリヤは人々からの人気にだまされませんでした。他の人々の視線も気にしません。

彼は大勝利の後も神様の御前で祈るために一人でまたカルメル山の頂上で上り、また変わらずひざまずき祈ります！エリヤの祈りからまた見出される姿勢は彼の切なさです。

愛する信仰の家族のみなさん、エリヤのように顔をひざの間にうずめてみてください。けっしてやりやすい姿勢ではありません。立って祈ることもできるし、もっと楽な姿勢で祈ってもよかったのにどうしてあんなに不便な姿勢でいのつたのでしょうか。それはエリヤの祈りがどれほど切なる祈りだったのかを表す姿ではないのでしょうか。

新約聖書のヤコブ使徒はエリヤの祈りの特徴を「熱心な祈り」だと言っています。「エリヤは、私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六ヶ月の間、雨が地に降りませんでした。それから彼は再び祈りました。すると天は雨を降らせ、地はその実を実らせました。(ヤコブ5:17-18)」

一番強力な祈りは謙遜だけではなく熱心な祈りです。聖書はイエス様の切なる祈りの姿をこのように描写しています。「イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。(ルカ22:44)」

「キリストは、肉体をもって生きている間、自分を死から救い出すことができる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって祈りと願ひをささげ、その敬虔のゆえに聞き入れられました。キリストは御子であられるのに、お受けになった様々な苦しみによって従順を学び(ヘブル人への手紙5章7-8節)」

先日、天から火を下したのは自分の力ではなく、神の御力であり、神の御業であることを徹底的に認めていたのではありませんか。そして、今天から雨を降らして下さる方も、ただ神様のみでおできになられることを彼は確実に信じていました。何の信仰の揺るぎも、高ぶったり、何の変わりも神の前ではありません！

神様はひたすら謙遜にささげられるエリヤの祈りに耳をかたむけ、答えてくださいました！エリヤは生きておられる神様の御前で自分を大した者ではなく、ただひたすら、祈りを通して、全能なる神の御力によって、問題が解決され、雨を降らして下されるお方であることをひたすら、信じ、認め、へりくだって頼っていたのではありませんか。

それがまさに祈りの答えへの秘訣です。いつも神の御前で祈る時には、ひざまずき、顔をひざの間にうずめながら祈るほど、偉大な神様の預言者エリヤの姿はまさしく、神様の御前で神様の助けなしには何もできないという小さい者に過ぎないことを謙遜な信仰と姿が、彼の祈りを通してあらわされています。

ここで教えられることは、何ですか。祈りは全能なる神の御前で、人を、我らを謙遜へと導くものであることです。切に祈るということは、自身の限界を素直に認め、全能なる神の御助けと御力がなければならぬことを、神にししか頼れないという表すことではありませんか。神の御前で心から祈りは、我らをへりくだらせ、謙遜にさせ、神の御業がなされるのを体験出来るように導きます。ですから、裏付けると、人が祈らないことが、霊的な高慢な状態であり、神に頼らず、ただ自分の力で生き抜こうとしている状況であることを立証してくれます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！本日子供祝福礼拝を子供たちと共に捧げながら、みなさんは子供たちにどんな願ひを持っておられますか。神に何を祈っていらっしゃるのでしょうか。みなさんのご自身も含めそして、我らの愛する子どもたちも自分の頭、力ではなく、神の人工リヤのように、生き

ておられる偉大な神の御業をいつも体験し、全能なる神の御手の中で大いに用いられる人生となることを望んでいるのなら、是非、祈りを通して、いつも神の前で謙遜にへりくだるように、祈りを持って神に謙遜に頼れるように導く全家庭となりますように切にお祈り申し上げます！

③祈りは忍耐を持って、神の時を待つように導きます。

エリヤの信仰の祈りは神の時、神の時間、神のタイミングまで、つまり、答えられるまで続ける祈りでした。
この前エリヤは天から火が下されるように祈った時も熱心に祈りました。今は天から雨を降らせてくださるようにともっと切に祈っています。人々が注目し、集まっている時にはいくらでも熱心に祈ることができます。しかし、だれも見えてないところで、一人で立たされた時にも変わらず、熱心に祈る時こそ尊い、まことの祈る姿ではないでしょうか。多くのイスラエルの民たちと偶像を崇拜する預言者たちの前でささげた祈りより一人でカルメル山の頂上で捧げているエリヤの祈りはもっと熱心でした。

エリヤの祈りはただ、熱心だけではなく、ねばりよく、神が答えて下さる時まで続ける祈りでした！！神様の約束の御言葉を握って祈りますが、神様からの答えのサインが見えるまで、しりぞかないで続ける祈りでした。
エリヤの祈りは熱心だけではなく、忍耐の祈りが特徴でした。

エリヤは切に祈りながら、若い者に雨が降るしるしがあるのか七回まで行って確かめるように命じます。ついに七度までになった時、人の手のひらほどの小さい濃い雨雲が上ってくるのを見ることができます(43節:彼は若い者に言った。「さあ、上って行って、海の方を見なさい。」若い者は上って、見たが、「何もありません」と言った。するとエリヤは「もう一度、上りなさい」と言って、それを七回繰り返した。44節:「七度目に若者は、「ご覧ください。人の手のひらほどの小さな濃い雲が海から上っています」と言った。エリヤは言った。「上って行って、アハブに言いなさい。『大雨に閉じ込められないうちに、車を整えて下って行きなさい。』」)。そして、やがて3年6か月も降らなかった雨が天から激しく降り始め、エリヤの祈りに神は答えて下さいました！

エリヤの祈りを通して、祈り続けることによって、神の答え、神が成されるタイミングの時まで忍耐深く、待たせるように導く手段であることが分かります！

ですから、愛するみなさん！祈る時、一度祈るのではなく、神様がちゃんと答えて下さる時まで、あきらめなくて祈り続けるの大切さを学ぶことができます。いつまで祈るのでしょうか。祈りが答えられるまでの祈るという意味です。エリヤの祈りの中、6回目までは何も見えませんでした。ようやく7度目になってそれとも小さい雲が見えました。あんな偉大な預言者エリヤであっても、一度ではなく、答えられるまで祈り続けた事が分かります。ですから、祈る時、忍耐が必要です。急ぐ自分の時ではなく、神がなされる時まで！ではないでしょうか。
「あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。(ヘブル10:36)」

愛する信仰の家族のみなさん！なぜ我らの祈りの中では、なかなか神の答えを体験したり、神のなさる御業を実体験することができない時が多いのでしょうか。何回か祈ってから、祈り続けることを忘れたり、後回しにしてしまったり、そのように祈り続けることを諦めてしまったからではないでしょうか。

御言葉の約束を信じて、謙遜に心から祈る祈りに神は必ず答えて下さいました。目に見えない神様を我らが今もなお御力、御業を実体験出来る道で祈りの答えにあるではありませんか。
なかなか短気で、忍耐が足りない我らかも知れませんが、祈り続けるうちに、忍耐の力が注がれ、主がさらに我らを強くし、ついに神の栄光を見ることが出来るように導かれるお方であることを聖書通して知ることが出来ます！

愛するみなさんもあきらめなくて、祈り続けて見ませんか。いつまでですか。実際神が答えて下さる時まで！考えて見て下さい。神様の人ダビデはエッサイの子らの中で八番目の息子でした。もし、エッサイが七番まで産んで、そこで終わったならば、ダビデはこの世に存在しなかったし、神様とイスラエルの民のために用いられなかったでしょう。例え、イギリスのスザンナは19人の子どもを産みました。その中でヨハンウエスレ(John Wesley)は15番目に生まれました。もし信仰の母であるスザンナが14番目の子どもで終わらせたならば、イギリス教会と世界教会へのリバイバルを導いた偉大な神様の人ヨハンウエスレは用いられなかったかも知れません。我々は祈りとともに人生のどんなことにおいても、決して神の前で諦めないで、もう一度ためして見ながら、祈り続けることが大切です。

結論: <エリヤの祈りを通し、祈りは自分も含め、多くの周りの人々を助け救うことが出来る神の力であり、神の祝福のそのものであります！>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！われわれはこれをもっと注目しなければなりません。もっと大切なのはエリヤがそんなに切実に祈っていたのは、ただ自分自身のためだったなら、そこまで祈り続けなかったかも知れません。しかし、エリヤの祈りは今3年6か月間、飢饉で苦しみ、ひどいかんばつで苦しんでい

るイスラエルの民のための祈りだったのではありませんか。苦しんでいる多くの民のために、彼らの救いの為、苦しんでいる彼らを助けるために、粘り強く、神の答えられる時まで切に祈り続けることが出来、実際、神はそのように成して下さったことが分かります。神様は、特に、困っている人や助けが必要な苦しんでいる人々の為の執り成しの祈りを喜ばれます！みなさんの祈りが、自分だけではなく、みなさんの子どもたちの将来を、牧場や教会家族や、職場で関わる多くの人々の未来を左右させる大切な手段であることを是非忘れないで頂きたいと願います。エリヤがもう一度、続けながら、6回で祈ることをやめて祈らなかつたならば、きっと飢饉で死んでいく多くの人々のいのちを救うことができなかつたかも知れません。なぜ我々はあきらめないで、答えられるまで祈り続けながら忍耐しなければならぬのでしょうか。われわれの小さい祈りが、神の御業をなされ、自分を含め、みなさんの家族、子どもたち、関わる全てのすばらしい未来をもたらし、来たらせる神の力であり、祝福だからです。

今日は一人の人エリヤの祈りを通して神様の偉大な御業が成されることをみることができました。もし時には四方が全部閉ざされているように見える時があるとしてもみなさん！上を見上げる事を忘れないで下さい！天は空いています。その天を開くカギは祈りです。天のとびらをあけて偉大な神様の全能なる御手を動かすのは祈りの小さいひざであることをエリヤの教訓をとおして学ばされ、実践していきましょう。

ですから、みなさんが一人で祈ることが、決して一人で終わらず、周りすべてに影響及ぼすことが出来る、天の扉を開ける神からの祝福のカギであることを忘れないでください！

人には限界があり、全ての物事がうまくいかず、いろいろな問題や状況に置かれている時がきっとあるでしょう。しかし、それにしても、それにも関わらずあきらめないでください！退かないでください！もうちょっと、もう一度祈り続けませんか。必ず主は祈るみなさんに答えて下さいます！素晴らしい神の御業を成して下さい！もう一度ためてみてください。もう一度祈って見て下さい。人の手の平ほどの小さい濃い雲を通して大雨が降り始めました(45節)。3年6ヶ月間も渇いた地に恵みの雨が！死にそうな苦しい状況の中にいた人々に生ける雨が降り注がれたのです。

エリヤの一人の祈りをとおして、全イスラエルの民に天から降らされた雨は神の回復の象徴であり、祝福の象徴であり、繁栄の象徴であり、恵みと救いの象徴でありました！エリヤのように求める者に神は必ずこのような恵みの雨を、救いの雨を、回復の雨をみなさんの祈りを通して、豊かに降り注いでくださると信じます。

ですから、親であるみなさんが子供たちの将来のために、一番大切に続くべきなのは祈りであり、われらの子どもたちが生涯、恵みの雨が、生ける力の雨が、回復と祝福の雨がずっと降り注がれる人生となることを望むなら、祈りを教え、祈ることを大切に、祈り続けるように助け導いて下さい。祈りの力を是非子供たちに体験させて下さい。

ですから、一人の心からの祈りを絶対無視しないで下さい。かるんじく思わないで下さい。みなさんの家庭に、子どもたちの将来に、牧場や我らの教会、関わるすべての人のためにも、今みなさんの一人の祈りがもっとも重要です！一人の祈りによっても答えられ、問題が解決され、周りが回復され、変わって行く秘訣であることを一生忘れないように心に刻み、また改めて、実践していきましょう。

実際答えられる時まで、小さな祈りでも祈り続けましょう！祈りのカギだけが天のとびらを開いて神様の御手を体験ができるようにさせます。今日からでもまた再び神様の約束の御言葉をにぎって祈り始めましょう。祈りが神によって答えられる時まで謙遜にへりくだって祈り続けることにより、今も雨のように降り注がれる生きておられる神の豊かな恵みを毎日経験されて行くクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族と、特に祈る子供たちの人生となりますように主イエスキリストの御名によって祝福をお祈りいたします。アーメン！